

講義コード	D360100101	科目ナンバリング	136F202
講義名	博士論文指導(フランス文学専攻)		
英文科目名	Supervision for Doctoral Thesis		
担当者名	鈴木 雅生		
単位	2	配当年次	D 1年～3年
時間割	集中(通年) その他 集中講義 対面授業		

授業概要

博士論文を遅滞なく完成させるために、資料収集の方法、論文の構成の仕方、具体的なテーマの選び方などを指導する。

到達目標

博士論文を完成できる

授業内容

実施回	内容
第1回	論文の書き方を口頭により指導
第2回	論文の書き方を口頭により指導
第3回	論文の書き方を口頭により指導
第4回	論文の書き方を口頭により指導
第5回	論文の書き方を口頭により指導
第6回	中間発表の準備
第7回	論文の書き方を口頭により指導
第8回	論文の書き方を口頭により指導
第9回	論文の書き方を口頭により指導
第10回	論文の書き方を口頭により指導
第11回	論文の書き方を口頭により指導
第12回	論文の書き方を口頭により指導
第13回	論文の書き方を口頭により指導
第14回	論文の書き方を口頭により指導
第15回	前期のまとめ、レポート
第16回	論文の書き方を口頭により指導
第17回	論文の書き方を口頭により指導
第18回	論文の書き方を口頭により指導
第19回	論文の書き方を口頭により指導
第20回	論文の書き方を口頭により指導
第21回	論文の書き方を口頭により指導
第22回	論文の書き方を口頭により指導
第23回	論文の書き方を口頭により指導
第24回	論文の書き方を口頭により指導
第25回	論文の書き方を口頭により指導
第26回	論文の書き方を口頭により指導
第27回	論文の書き方を口頭により指導
第28回	論文の書き方を口頭により指導
第29回	論文の書き方を口頭により指導
第30回	論文の書き方を口頭により指導

授業方法(対面授業の場合)

個別面談

授業方法(遠隔授業の場合)

基本的にZoomを使用する

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に自分が抱えている問題を整理しておくこと

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

面談によるフィードバック

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M360100101	科目ナンバリング	136F201
講義名	修士論文指導(フランス文学専攻)		
英文科目名	Supervision for Master's Thesis		
担当者名	鈴木 雅生		
単位	2	配当年次	M 1年～2年
時間割	集中(通年) その他 集中講義 対面授業		

授業概要

修士論文を遅滞なく完成させるために、資料収集の方法、論文の構成の仕方、具体的なテーマの選び方などを指導する。

到達目標

修士論文を完成できる

授業内容

実施回	内容
第1回	論文の書き方を口頭により指導
第2回	論文の書き方を口頭により指導
第3回	論文の書き方を口頭により指導
第4回	論文の書き方を口頭により指導
第5回	論文の書き方を口頭により指導
第6回	中間報告の準備
第7回	論文の書き方を口頭により指導
第8回	論文の書き方を口頭により指導
第9回	論文の書き方を口頭により指導
第10回	論文の書き方を口頭により指導
第11回	論文の書き方を口頭により指導
第12回	論文の書き方を口頭により指導
第13回	論文の書き方を口頭により指導
第14回	論文の書き方を口頭により指導
第15回	前期のまとめ、レポート
第16回	論文の書き方を口頭により指導
第17回	論文の書き方を口頭により指導
第18回	論文の書き方を口頭により指導
第19回	論文の書き方を口頭により指導
第20回	論文の書き方を口頭により指導
第21回	論文の書き方を口頭により指導
第22回	論文の書き方を口頭により指導
第23回	論文の書き方を口頭により指導
第24回	論文の書き方を口頭により指導
第25回	論文の書き方を口頭により指導
第26回	論文の書き方を口頭により指導
第27回	論文の書き方を口頭により指導
第28回	論文の書き方を口頭により指導
第29回	論文の書き方を口頭により指導
第30回	通年のまとめ、レポート

授業方法(対面授業の場合)

個別面談

授業方法(遠隔授業の場合)

基本的にZoomを使用

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に自分が抱えている問題を整理しておくこと

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

面談によるフィードバック

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M360200101	科目ナンバリング	136F101
講義名	フランス語学特殊研究(大学院)		
副題	フランス語の歴史的・地域的・多様な広がり		
英文科目名	Studies in the French Language		
担当者名	松村 剛		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 月曜日 4時限 遠隔授業		

授業概要

フランス語の歴史的、地域的な広がりや多様性を理解していただくことを目的とします。そのために必要な道具を紹介し、それらを批判的に活用する練習をしていただきます。論文作成などのために知っておくべき基本的な研究倫理についても学んでいただきます。

到達目標

履修者各自の研究対象と関連させながら、フランス語の歴史的、地域的な広がりや多様性を理解していただくことを目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	概説。
第2回	Le Petit Robert の特徴と問題点。
第3回	Le Petit Robert の批判的読解演習。
第4回	Le Trésor de la Langue française の特徴。
第5回	Le Trésor de la Langue française の問題点。
第6回	Le Trésor de la Langue française の批判的読解演習。
第7回	Dictionnaire des onomatopées の特徴と問題点。
第8回	Dictionnaire des onomatopées の批判的読解演習。
第9回	Dictionnaire des jurons の特徴と問題点。
第10回	Dictionnaire des jurons の批判的読解演習。
第11回	Dictionnaire des régionalismes de France の特徴と問題点。
第12回	Dictionnaire des régionalismes de France の批判的読解演習。
第13回	Französisches Etymologisches Wörterbuch の特徴と問題点。
第14回	Französisches Etymologisches Wörterbuch の批判的読解演習。
第15回	総括。
第16回	Le Bon Usage の特徴と問題点。
第17回	Le Bon Usage の批判的読解演習。
第18回	Littre の特徴と問題点。
第19回	Littre の批判的読解演習。
第20回	Huguet の特徴と問題点。
第21回	Huguet の批判的読解演習。
第22回	Dictionnaire du Moyen Français の特徴と問題点。
第23回	Dictionnaire du Moyen Français の批判的読解演習。
第24回	Godefroy の特徴と問題点。
第25回	Godefroy の批判的読解演習。
第26回	Tobler-Lommatzsch の特徴と問題点。
第27回	Tobler-Lommatzsch の批判的読解演習。
第28回	Anglo-Norman Dictionary の特徴と問題点。
第29回	Anglo-Norman Dictionary の批判的読解演習。
第30回	総括。

授業方法(対面授業の場合)

講義、演習。

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型。Zoomを使用します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に指示した箇所を読んでおくこと(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	80 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):80%(積極的に授業に参加すること。) レポート:20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学生のレポートその他は授業内でコメントし、授業の内容に反映させる。

教科書コメント

授業時に指示する。

参考文献コメント

授業時に指示する。

カリキュラムマップ右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M360202101	科目ナンバリング	136F103
講義名	◆フランス文学特殊研究(学部:フランス語圏文化演習(文学・思想))(大学院)		
副題	Hugo et l'épopée		
英文科目名	Studies in French Literature		
担当者名	MARE, Thierry		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 水曜日 5時限 対面授業		

授業概要

Au Japon, Victor Hugo est plus connu comme romancier qu'en tant que poète. C'est plutôt le contraire en France, où les Orientales, Les Rayons et les Ombres et Les Contemplations continuent d'être étudiés assidûment dans les établissements d'enseignement secondaire. Ecrite entre 1855 et 1876, principalement dans l'exil de Guernesey, La Légende des Siècles a été publiée en trois livraisons, en 1859, 1877 et 1883. Le plan du livre peut sembler un peu cahotique : il s'agit d'une série de longs poèmes dans lesquels l'histoire humaine est présentée sous une forme épique, fantastique, souvent dans une perspective métaphysique, ou voulue telle par l'auteur.

到達目標

La lecture extensive de ces "petites épopées" (puisque tel était le projet initial du livre dont l'éditeur Hetzel avait passé commande à Hugo) nous permettra de mettre au point certaines questions concernant la versification française, l'histoire du monde, celle de la littérature... et peut-être aussi quelques détails de grammaire...

授業内容

実施回	内容
-----	----

- | | |
|------|--|
| 第1回 | Présentation de Victor Hugo. |
| 第2回 | Présentation de La Légende des Siècles |
| 第3回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第4回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第5回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第6回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第7回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第8回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第9回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第10回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第11回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第12回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第13回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第14回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第15回 | Récapitulation du premier semestre. |
| 第16回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第17回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第18回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第19回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第20回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第21回 | Lecture et commentaire du texte. |
| 第22回 | Exposé sur le texte. |
| 第23回 | Exposé sur le texte. |
| 第24回 | Exposé sur le texte. |
| 第25回 | Exposé sur le texte. |
| 第26回 | Exposé sur le texte. |
| 第27回 | Exposé sur le texte. |
| 第28回 | Exposé sur le texte. |
| 第29回 | Exposé sur le texte. |
| 第30回 | Conclusion générale. |

授業計画コメント

Le temps consacré aux exposés dépendra évidemment du nombre des participants au cours.

授業方法(対面授業の場合)

Nous lirons ensemble certains extraits du texte, que je commenterai ligne à ligne, selon les principes de l'explication de texte "à la française".

授業方法(遠隔授業の場合)

Toutes les séances seront "en présentiel".

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Lire le texte avant le cours et le relire après... C'est à peu près tout ce que je puis conseiller : à part, bien sûr, de soigner la préparation des exposés au cours du second semestre.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	Exposés

成績評価コメント

Les exposés consisteront, pour chacun des étudiants, à présenter le commentaire détaillé d'une partie du texte qui lui aura été attribuée par mes soins.

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Je reprendrai l'exposé au cours de la même séance et m'efforcerai d'en souligner les qualités et d'en pallier les manques éventuels.

教科書

La Légende des Siècles: "Poésie", Victor Hugo, Gallimard, 2002, 978-2070418725

参考文献コメント

Beaucoup d'éditions sont incomplètes ou ne présentent pas les différents poèmes dans le même ordre. Il est important que tout le monde dans la classe utilise le même livre.

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M360202102	科目ナンバリング	136F103
講義名	◆フランス文学特殊研究(学部:フランス語圏文化演習(文学・思想))(大学院)		
副題	『パリの憂鬱』を読む 3 (「政治的射程」の考察)		
英文科目名	Studies in French Literature		
担当者名	鈴木 啓二		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 金曜日 3時限 対面授業		

授業概要

一昨年度、昨年度に続き、ボードレールの散文詩集『パリの憂鬱』の様々な詩篇を読みながら、この詩集、あるいは、「散文詩」という19世紀に誕生した新しい文学ジャンルそのものが含み持つ、複数の射程(美学的、宗教的、政治的射程)を考察する。
一昨年度の授業では、ボードレールの散文詩を、「表象不可能な現実(界)の表象」の終わりなき営為としてとらえるに至った。また、昨年度の授業では、ボードレールの散文詩を、写真との関係、フローベールの「非人称性」の美学との関係において検討した。
最終年度となる今年度は、とりわけ、この詩集の政治的射程に焦点をあてながら、詩集全体に関わる、民主主義、他者性、共和主義、コミュニケーション、暴力等の問題を、総合的に考察する。

授業は、『パリの憂鬱』をめぐる批評文の紹介・検討と未読詩編の詳細な読解という二つの部分からなる。

今年度、批評文としてとりあげるのは、Patrick Labarthe commente Petits Poèmes en prose, Foliothèque, Gallimard, 2014, 及び、Le Magazine Littéraire誌の「晩年のボードレール」特集号(2014年10月)に掲載された以下の論文である。

Pierre Glaudes, « Révolutionnaire ou réactionnaire ? »

Stéphane Guégan, « De la peinture dans l'encrier »

Steve Murphys, « Un monstre d'ambivalence »

なお、下に掲げる各回の授業内容は、一年間でとりあげる内容を大まかに列挙したものである。実際の授業においては、それぞれのテーマをとりあげる順序を、変更する可能性がある。

到達目標

ボードレールの散文詩が切り開いた地平がどのようなものであったかを、各自の関心に即して把握できるようになること

授業内容

実施回	内容
第1回	1学期全体についての説明
第2回	散文詩と、19世紀中庸の政治的変容(共和主義と文学)1
第3回	散文詩と、19世紀中庸の政治的変容(共和主義と文学)2
第4回	散文詩と、19世紀中庸の政治的変容(共和主義と文学)3
第5回	散文詩と、19世紀中庸の政治的変容(共和主義と文学)4
第6回	学生による発表
第7回	散文詩と、19世紀中庸の政治的変容(共和主義と文学)5
第8回	散文詩と、19世紀中庸の政治的変容(共和主義と文学)6
第9回	散文詩と、19世紀中庸の政治的変容(共和主義と文学)7
第10回	散文詩と、19世紀中庸の政治的変容(共和主義と文学)8
第11回	学生による発表
第12回	中間的総括1
第13回	中間的総括2
第14回	学生による発表
第15回	振り返り、到達度確認、等
第16回	1学期全体についての説明
第17回	『パリの憂鬱』の総合的考察1
第18回	『パリの憂鬱』の総合的考察2
第19回	『パリの憂鬱』の総合的考察3
第20回	『パリの憂鬱』の総合的考察4
第21回	学生による発表
第22回	『パリの憂鬱』の総合的考察5
第23回	『パリの憂鬱』の総合的考察6
第24回	『パリの憂鬱』の総合的考察7
第25回	『パリの憂鬱』の総合的考察8
第26回	学生による発表
第27回	授業全体の総括1
第28回	授業全体の総括2

- 第29回 授業全体の総括3
第30回 振り返り、到達度確認、等

授業方法(対面授業の場合)

本授業は対面で行う。授業では、原則として、何回か続けて鈴木が特定のテーマに関する講義を行ったあと、参加している学生一人一人から、講義の内容についてのコメントを述べてもらう。また、授業では、随時、学生による訳読や、研究発表も行う。

授業方法(遠隔授業の場合)

(本授業は対面授業を基本とする)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各回に講読を予定しているテキストや、事前に配布された日本語によるレジюмеなどの資料は、必ず読んでおくこと。フランス語テキストの事前の準備に際しては、仏和辞典だけでなく、仏仏辞典(Graod Robert, Grand Larousse, TLFなど)にもあたること。なお、第一回授業で、辞書についての簡単な説明も行う。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業参加の積極性、課題への取り組みの真剣さが評価のポイントとなる。
この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に、発表に対するコメントの形で行う

教科書

Le Spleen de Paris: Le livre de poche "classiques", Baudelaire, Le Livre de Poche, 2003

教科書コメント

Le Livre de Poche版がどうしても入手できない場合は、他の版を用いても構わない

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M360300101	科目ナンバリング	136F104
講義名	◆フランス語学演習(学部:フランス語圏文化演習(言語・翻訳))(大学院)		
副題	文学読解の初歩		
英文科目名	Seminar in the French Language		
担当者名	BIZET, Francois		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 金曜日 2時限 対面授業		

授業概要

Introduction au commentaire littéraire.

到達目標

Ce cours doit permettre aux étudiants

- 1) d'acquérir les techniques de l'analyse littéraire
- 2) de composer un commentaire selon les critères académiques

授業内容

実施回	内容
-----	----

第1回	Introduction générale.
第2回	Lecture de Un homme qui dort de Georges Perec.
第3回	Lecture de Bouvard et Pécuchet de Gustave Flaubert (1)
第4回	Lecture de Bouvard et Pécuchet de Gustave Flaubert (2)
第5回	Lecture de Bouvard et Pécuchet de Gustave Flaubert (3)
第6回	Correction des devoirs
第7回	Lecture de Madame Bovary de Gustave Flaubert (1)
第8回	Lecture de Madame Bovary de Gustave Flaubert (2)
第9回	Lecture de Madame Bovary de Gustave Flaubert (3)
第10回	Correction des devoirs
第11回	Lecture de Sodome et Gomorrhe de Marcel Proust (1)
第12回	Lecture de Sodome et Gomorrhe de Marcel Proust (2)
第13回	Lecture de Sodome et Gomorrhe de Marcel Proust (3)
第14回	Lecture de Sodome et Gomorrhe de Marcel Proust (4)
第15回	Correction des devoirs
第16回	Lecture de L'Étranger d'Albert Camus (1)
第17回	Lecture de L'Étranger d'Albert Camus (2)
第18回	Lecture de L'Étranger d'Albert Camus (3)
第19回	Lecture de L'Étranger d'Albert Camus (4)
第20回	Correction des devoirs
第21回	Lecture du Vice consul de Marguerite Duras (1)
第22回	Lecture du Vice consul de Marguerite Duras (2)
第23回	Lecture du Vice consul de Marguerite Duras (3)
第24回	Lecture du Vice consul de Marguerite Duras (4)
第25回	Correction des devoirs
第26回	Lecture de Tropismes de Nathalie Sarraute (1)
第27回	Lecture de Tropismes de Nathalie Sarraute (2)
第28回	Lecture de Tropismes de Nathalie Sarraute (3)
第29回	Lecture de Tropismes de Nathalie Sarraute (4)
第30回	Correction des devoirs

授業方法(対面授業の場合)

Les cours auront lieu en présence. Une participation active des étudiants est demandée.

授業方法(遠隔授業の場合)

selon les circonstances

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Les textes seront fournis à l'avance et devront être préparés, à la demande, pour le cours suivant.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Les productions des étudiants seront corrigées et commentées individuellement et feront l'objet d'une reprise pendant le cours.

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M360300102	科目ナンバリング	136F104
講義名	◆フランス語学演習(学部:フランス語圏文化演習(言語・翻訳))(大学院)		
副題	発話行為について考える		
英文科目名	Seminar in the French Language		
担当者名	中尾 和美		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 火曜日 4時限 遠隔授業		

授業概要

フランス語で書かれた言語学関連の短い文章または論文を読むことで、書き言葉のフランス語に慣れると同時に、言語学の第一歩となるような視点を養う。今年度は、主として語用論的な視点から日常を取り巻く言語の考察を深めたい。

到達目標

書き言葉のフランス語に慣れること、フランス語らしいフランス語が書けるようになること、ことば一般に対する興味を深めることを目指す。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	日常を取り巻く言語について(1)
第3回	日常を取り巻く言語について(2)
第4回	日常を取り巻く言語について(3)
第5回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(1)
第6回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(2)
第7回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(3)
第8回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(4)
第9回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(5)
第10回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(6)
第11回	発表(1)
第12回	発表(2)
第13回	発表(3)
第14回	授業の総括(1)
第15回	授業の総括(2)
第16回	日常を取り巻く言語について日本語とフランス語の比較(1)
第17回	日常を取り巻く言語について日本語とフランス語の比較(2)
第18回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(1)
第19回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(2)
第20回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(3)
第21回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(4)
第22回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(5)
第23回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(6)
第24回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(7)
第25回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(8)
第26回	発表(1)
第27回	発表(2)
第28回	発表(3)
第29回	授業の総括(1)
第30回	授業の総括(2)

授業方法(対面授業の場合)

フランス語についての文章を読み、理解を深めながら議論していく演習方式

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomを使ったオンライン授業(対面と同じ内容)とSlackを使った資料配布などオンデマンド方式を併用する

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

担当箇所を調べるだけでなく、全体を読んで内容を理解するようにしておくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):(テキストの予習、授業における参画、発表。)単なる出席ではなく、授業への参加態度も成績評価の対象とする。

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められることは言うまでもない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートについては、コメント、返却する。

教科書コメント

授業で講読する論文は、授業中に指示する。

参考文献

Quand dire, c'est faire, J.L. Austin, Éditions du Seuil, 1970

Les actes de langage dans le discours, C. Kerbrat-Orecchioni, Armand Colin, 2008

Politeness, Brown & Levinson, Cambridge, 1987

Langage et discours, P. Charaudeau, Hachette université, 1983

Les phrases sans texte, D. Maingueneau, Armand Colin, 2012

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示する。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M360301101	科目ナンバリング	136F105
講義名	◆フランス文学演習(学部:フランス語圏文化演習(文学・思想))(大学院)		
副題	フローベール『ボヴァリー夫人』研究		
英文科目名	Seminar in French Literature		
担当者名	野村 正人		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 火曜日 2時限 対面授業		

授業概要

ギュスターヴ・フローベール『ボヴァリー夫人』を丹念に読み解きながら、作品を成り立たせている構造やテーマの分析を行うと同時に、小説に描かれた細部の歴史的背景を調べることによって、作品の理解を深いものとする。

到達目標

フローベール『ボヴァリー夫人』の独自性を理解すると同時に、19世紀の文学におけるリアリズムとはなにかを理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	19世紀小説史の概観(1)
第2回	19世紀小説史の概観(2)
第3回	作家フローベールと作品『ボヴァリー夫人』の概説(1)
第4回	作家フローベールと作品『ボヴァリー夫人』の概説(2)
第5回	『ボヴァリー夫人』(第一部)の発表と、コメント・解説(1)
第6回	『ボヴァリー夫人』(第一部)の発表と、コメント・解説(2)
第7回	『ボヴァリー夫人』(第一部)の発表と、コメント・解説(3)
第8回	『ボヴァリー夫人』(第一部)の発表と、コメント・解説(4)
第9回	『ボヴァリー夫人』(第一部)の発表と、コメント・解説(5)
第10回	『ボヴァリー夫人』(第一部)の発表と、コメント・解説(6)
第11回	『ボヴァリー夫人』(第二部)の発表と、コメント・解説(1)
第12回	『ボヴァリー夫人』(第二部)の発表と、コメント・解説(2)
第13回	『ボヴァリー夫人』(第二部)の発表と、コメント・解説(3)
第14回	前期のまとめ
第15回	達成度確認
第16回	『ボヴァリー夫人』(第二部)の発表と、コメント・解説(4)
第17回	『ボヴァリー夫人』(第二部)の発表と、コメント・解説(5)
第18回	『ボヴァリー夫人』(第二部)の発表と、コメント・解説(6)
第19回	『ボヴァリー夫人』(第二部)の発表と、コメント・解説(7)
第20回	『ボヴァリー夫人』(第二部)の発表と、コメント・解説(8)
第21回	『ボヴァリー夫人』(第二部)の発表と、コメント・解説(9)
第22回	『ボヴァリー夫人』(第三部)の発表と、コメント・解説(1)
第23回	『ボヴァリー夫人』(第三部)の発表と、コメント・解説(2)
第24回	『ボヴァリー夫人』(第三部)の発表と、コメント・解説(3)
第25回	『ボヴァリー夫人』(第三部)の発表と、コメント・解説(4)
第26回	『ボヴァリー夫人』(第三部)の発表と、コメント・解説(5)
第27回	『ボヴァリー夫人』(第三部)の発表と、コメント・解説(6)
第28回	『ボヴァリー夫人』全体のコメント・解説(1)
第29回	『ボヴァリー夫人』全体のコメント・解説(2)
第30回	達成度確認

授業方法(対面授業の場合)

事前に担当箇所を学生に指定し、その部分で調べたことを発表してもらう。それをもとにコメントをつけ、解説をする。

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型 (Zoomを使う) とオンデマンド型を併用するが、方法は対面授業と同じ。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業当日に使用するテキストの該当箇所を下調べしておくこと(1時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	レポート提出
学年末試験(第2学期)	40 %	レポート提出
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験の答案、レポートなどは採点、コメントをつけて返却する。

教科書コメント

最初はコピーを使う。テキストは授業時に指示。

参考文献コメント

授業時に指示

カリキュラムマップ右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M360301102	科目ナンバリング	136F105
講義名	◆フランス文学演習(学部:フランス語圏文化演習(文学・思想))(大学院)		
副題	シラノ・ド・ベルジュラック『月世界旅行』をよむ		
英文科目名	Seminar in French Literature		
担当者名	志々見 剛		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 木曜日 3時限 対面授業		

授業概要

シラノ・ド・ベルジュラックは、17世紀の文人、自由思想家で、彼の『月世界旅行』は、奇想と風刺に満ちたSF的な作品である。この授業では、作品の背景を逐次確認しながら、このテキストを読み解いていく。

(なお、ロスタンの『シラノ・ド・ベルジュラック』という戯曲はこの人物をいちおうのモデルとしている。)

到達目標

作品の背景や、言葉の綾を理解しながら、フランス語のテキストを理解し、分析できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	作品の冒頭部について
第3回	訳読と分析
第4回	同上
第5回	同上
第6回	同上
第7回	同上
第8回	同上
第9回	同上
第10回	同上
第11回	同上
第12回	同上
第13回	同上
第14回	まとめ
第15回	総括
第16回	訳読と分析
第17回	同上
第18回	同上
第19回	同上
第20回	同上
第21回	同上
第22回	同上
第23回	同上
第24回	同上
第25回	同上
第26回	同上
第27回	同上
第28回	同上
第29回	まとめ
第30回	総括

授業方法(対面授業の場合)

演習

授業方法(遠隔授業の場合)

Webclassで資料などをやりとりしつつ、Zoomでのリアルタイム。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

あらかじめテキストを読み、分からない単語などを調べておく。
発表担当者はレジュメを準備する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。受講者の数などによって変更することがある。
この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは、コメントを付して返却する。

教科書

Voyage dans la lune l'autre monde ou les États et empires de la Lune, Cyrano de Bergerac, Flammarion, 9782080702326

参考文献

日月両世界旅行記: 岩波文庫, シラノ・ド・ベルジュラック著, 赤木昭三 訳, 岩波書店, 9784003250617

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M360302101	科目ナンバリング	136F106
講義名	◆フランス演劇演習(学部:フランス語圏文化演習(舞台・映像))(大学院)		
副題	フランス語(圏)の舞台にみることば、身体、そして権力の表象		
英文科目名	Seminar in French Drama		
担当者名	DE VOS, Patrick		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 木曜日 4時限 対面授業		

授業概要

この授業では、フランス又フランス語圏で1950年代以降の舞台芸術の軌跡を刻んだと思われる幾つかの作品を取り上げ、その特徴を紹介し、歴史的、美学的背景を考慮しながら、作品の意義を考えていく。予め通史的なアプローチを選ぶのではなく、取り上げる各作品の中から、他の作品との関連性、属する筈の「ジャンル」に対する立ち位置、ことばに対する戦略、身体の表象、古典に対する読み、観客という視点の構築、都市のなかの舞台の使命などのトピックを通して、作品の解明を目指すと同時に、戯曲に限らない舞台作品を映像を通して如何に読めるかを考えて行きたい。演習なので、与えられた課題(戯曲の紹介など、与えられた映像の試読など)に答えてみる発表をしていただく形もとる。

到達目標

戦後から現在までのフランス文化圏における演劇やダンスという大きな宇宙を垣間見ることから、文章だけではなく動画によって目と耳で確かめられる具体的な例を通じて、そのうちの幾つか重要な傾向、問題系、作家の仕事、フランス演劇の基礎的なレパートリーへの理解を深める。また、断片でも原語で戯曲や批評文を読むこともあるので、フランス語の理解も深める。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション。授業の内容や方法の説明。
第2回	60年代から現代かけて、古典の読み直しの推移。
第3回	古典を演出する巨匠たち。VitezとChéreauの場合。
第4回	太陽劇団によるモリエール、Antoine Vitezのモリエール。
第5回	Vitez の三つのソフォクレスによる『Electre』、その1。
第6回	Vitez の三つのElectre. その2。
第7回	Vitez の三つのElectre. その3。
第8回	ベケット作『Fin de partie』(『勝負の終わり』)の試読、その1。
第9回	『Fin de partie』その2。現代劇の古典をいかに読むか。
第10回	『Fin de partie』を演出する(Charles Berlingによる舞台の例)。
第11回	モリエールの『Dom Juan』を読む。
第12回	『Dom Juan』、その2。Jouvetの演技指導や演出。
第13回	演出を語る演出。Brigitte Jaquesの『Elvire/Jouvet』。
第14回	『Elvire/Jouvet』その2。
第15回	まとめ。
第16回	ポストコロニアル状況の舞台、その1。
第17回	ポストコロニアル状況の舞台、その2。
第18回	ポストコロニアル状況の舞台、その3。
第19回	モリエールの『Tartuffe』を読む。
第20回	太陽劇団版の『Tartuffe』の創作。
第21回	集団創作の系譜。Aquarium劇団の仕事。
第22回	演出家を追い払った劇団。Tg Stan劇団によるモリエール。
第23回	Tg Stan劇団によるモリエール、その2。
第24回	パフォーマンスが問う身体と観客の眼差。Xavier Leroyの「Self portrait unfinished」。
第25回	パフォーマンスが問う身体と観客の眼、その2。Jérôme Bel。
第26回	人形に身体を奪われるパフォーマー。Giselle Vienneの『Jerk』。
第27回	『Jerk』その2。
第28回	ドキュメンタリー演劇の系譜。Milo Rauの仕事。
第29回	学生による発表
第30回	まとめ

授業計画コメント

演習の授業なので学生の参加による部分もあり、履修者数によって以上のスケジュールで扱う項目の順番などの変更がある可能性

もある。

授業方法(対面授業の場合)

基本的に対面で行います。

授業方法(遠隔授業の場合)

オンラインに切り替える必要があった場合、資料の扱いの関係で、内容の変更もある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

取り扱う作品によって、そのもとになる戯曲や関連のある批評、演劇論などを読んでいただき、順番で発表という形でその内容を授業で伝えてもらうことがある。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

演習のため、学生の積極的な参加が期待される。

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表やレポートに対するコメントをします。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>